

(様式3)

## 自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>さくらの家の理念は、「人権を守る」「公平・公正を心掛ける」「地域との交流を大切にする」です。その人がその人らしく生きていただきたいと思い、私たちはどう援助していくのか、主人公は誰なのかということを常に考えて進めたいと思っています。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員室の入口部分に理念の掲示</li> <li>・日々のミーティング、月1回の定例会での確認</li> <li>・ケアカンファレンスで理念に基づいた話し合いを持ち、ケアプランへの反映</li> </ul>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>さくらの家まつりを開催し、地域の方や家族を招待し、その中でパンフレットを配布したりして地域の方に知っていただくよう心掛けている。また、地域行事に積極的に参加している。</p> <p>また、月1回の通信誌「さくらのさんぽ道」を作成し、家族に送付したり、運営推進会議で配布を行っている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>利用者と職員が散歩に出かけたりして行く中で、近所の方と気軽に挨拶を交わしたり、近所にいる子供さんたちが、利用者のところへ尋ねて遊びに来られたりしている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域で行われるフェスティバルに出店したり、自治会開催の文化祭に作品を参加・出展したりして地元の人々との交流に努めている。</p> <p>また、さくらの家まつりを開催時には、催し物では、地域のボランティアの方に手伝っていただいたり、地域の方、自治会の方を招待して地元の人々と交流することに努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>今後より一層話し合いを深め、具体的な地域貢献を行っていきたい。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>各職員がさらにケアに求められる事項を認識し、今後活かしていきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>今までの参加者に加え、地域の同業者や家族にも参加してもらっている。さらに参加者を増やし、より多くの意見・情報交換の場にしていきたい。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>サービスの向上に繋がる連携がとれるよう努めたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>職員の内部研修として、専門家を招いて、学ぶ機会を作りたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>高齢者虐待防止についての内部研修会を行ったり、外部研修についても積極的に行かせる等、職員の意識を高め、防止に努めている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常生活の場で、それぞれの利用者の不満の声を職員がしっかりと聞き、ケアカンファレンスの場で話し合いを持ち、ケアや運営に反映させている。</p> <p>また、苦情窓口を設置したり、苦情処理表を作成している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回、暮らしぶりを知らせる通信誌「さくらのさんぼ道」の発行し、その中に各家族様宛にメッセージを。また、あわせて預かり金の出納簿を作成し郵送している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>電話や家族来所時に、運営に関する率直な意見を聞く時間を持つように心がけ、それを反映させている。</p>	<p>昨年、家族会再開のお知らせを送付したが、再開には至っていない。早急に開催し、意見交換の場としていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日のミーティングやケアカンファレンス、月1回の定例会で意見や提案を聞き、反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事を行ったりする際に、短時間勤務者を増やしたり、利用者の状況の変化に応じて、定例会等で話し合いを行い、必要な時間帯への勤務調整に努めている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者の立場になって考え、影響のないように努めている。</p>		
<p><b>5.人材の育成と支援</b></p>			
<p>19</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修の年間計画を立て、月1回の定例会で研修会を行っている。また、外部研修の受講機会を提供し、育成に努めている。</p>		
<p>20</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他施設を訪問したり、自施設を見学してもらったりして、交流をはかっている。また、施設部会に参加し、同業者との意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。</p>		<p>さらに交流の機会を増やし、更なるサービスの質の向上に努めたい。</p>
<p>21</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は、職員のストレスを軽減するための声掛けを行ったり、面談を行ったりして、環境作りに取り組んでいる。</p>		<p>今後も運営者が相談してもらいやすい雰囲気作りに努めていきたい。</p>
<p>22</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、職員個々の勤務について、面談の場を設けたりして、職員の希望を吸い上げ、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居に至るまでに、本人や家族と面談を行い、本人から聞き取りの中で、思いをしっかりと聴き、受け止めるように努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談時に、しっかりと家族の思いを聞き、その後も面談時等、複数回家族と話す機会を持つようにしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>デイサービスやショートステイの利用を勧めるなど、そのとき必要としている支援を見極めて対応するように努めている。</p>	<p>同業者のパンフレットをそろえたり、情報収集に努めているが、他事業者との交流を行い、更に充実させていきたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居に際しては、事前に面談し、馴染みの関係づくりに努めている。併設のデイサービスの体験やグループホームの見学を取り入れるなど工夫している。また、体験入居を取り入れ、馴染みながらの利用につながるようにしている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活の中で、利用者から知恵を学ぶことや、利用者に癒されることも多い。共に喜び、共に悲しみ、お互いに支えあう関係を目指し、一方的な関係にならないように努めている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族と親しく話せる関係を築き、利用者の日々の様子を伝え、喜びや悲しみを共有している。また、外出企画にさせていただいたり、手作りの品を提供して下さる等、協力して利用者を支えている。		今後、行事や外出時の家族の参加を更にお願いで、働きかけていきたい。
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の来所によって、利用者の気持ちがやすらぎ、穏やかになるので、いつでも来所していただきたいことを伝えている。また、利用者の日々の様子をいろいろな機会を通じて伝えると共に、家族から話を聞くように努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人・知人等、来所されたときは、しっかりと対応して関係が途切れないように促している。また、去年は入居以来自宅に帰られたことがなかった利用者様を懐かしい故郷へお連れしたり、娘さんの家を訪問する外出企画を行い、出来る限り馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビング等、共同生活の場において、コーヒータ임을、設けたり、おかしや食事作り企画を行ったりして、利用者同士が常に話せる場を作るように努めている。また、時には職員が間に入って、利用者同士の関係の調整をはかり、孤立しないように支援している。		利用者によっては、一人を好み、部屋での食事を好んだりされる方もおられる。できる限り孤立しないように努めていきたい。
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了した利用者の家族とは電話等で接点を持って、つきあいを大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時にアセスメントを行い、家族や本人の思いを把握するように努めている。職員が生活の中で得た情報は、連絡ノートやシートで職員間で共有し、本人の意向の把握に努めている。また、困難な場合は、定例会やケアカンファレンスにて、職員で話し合い、検討している。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に提出されるシートやアセスメントを通して、これまでの暮らしの把握に努めている。また、日々の家族や本人との会話を通して得た情報は、生活歴の記録として残し、職員間で共有して把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>必要を感じたときに、センター方式のシートや独自の用紙による記録をとり、現状把握に努めている。</p>	
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成にあたり、本人や家族の思いをしっかりと聞き、必要なときは医師からのアドバイスも考慮して作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の生活に変化が生じた場合、週4回行っているケアカンファレンスの場で話し合い、カンファレンスシート及び連絡ノートの利用で、対応の指示を出している。それを基に新たな計画を作成するように努めている。</p>	<p>今後、さらに現状に即した新しい計画作成が行えるように努めたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個人ファイルに記録している。新たにケアカンファレンスシートも利用し、情報の共有に努め、実践や介護計画の見直しに活かしている。		今後も適宜、アセスメントシートの利用を推し進めていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前に併設のデイサービスの利用を勧めたりして、馴染みながらの利用につながるよう配慮している。個々の希望に沿った外出や外食を行っている。入院中の利用者の洗濯や必要な物品を届けるなどの支援も行っている。また、併設のデイサービスのボランティア講師に来ていただき、音楽療法を行っている。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域で活動しているサークルの方々に来所していただき、音楽会を開いてもらったり、得意な芸を見せてもらったりする機会を持っている。また、地域の絵画教室に受け入れてもらい、毎月お稽古に行かれる利用者もいる。昨年は、トライやウィークの中学生の受け入れも行った。		
41	他のサービスの活用支援  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族の意向に応じ、他の施設の見学に同行したり、話し合いの場を提供するなどの支援をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは、運営推進会議などでアドバイスや情報をいただいているが、協働には至っていない。		今後は、地域に根付いた事業所として、地域包括支援センターと協力しながら、動いていきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>医師から利用者の病気や処方されている薬に関する説明が聞けるような勉強会を持ちたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>転出先へ介護サマリーを提出したり、十分に話し合いや情報交換を行っている。</p>	
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1.その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>理念の一つ目に「人権を守る」を掲げており、個人情報の保護、プライバシー保護は細心の注意をはらっている。入浴や排泄時などは、さりげなく他の利用者に気づかれないような言葉かけなどの介助に努めている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日々の生活の中で、話しやすい関係づくりを心掛けている。本人が分かるまで説明を行い、自己決定のもと暮らせるように努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の希望に沿った生活をしてもらい、個別対応の外出支援なども積極的に行っている。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人や家族の希望により、ホーム内に美容師を迎えたり、望む店に行く場合もある。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的に、食事は厨房で作っており、出来上がったものを利用者に配膳してもらっている。また、利用者一人一人の好みや健康状態を把握し、それに対応している。月2回の食事企画をたて、利用者と共に調理をする機会を作っている。		
55 利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	体調や日々の状態を把握し、さりげなく量などに配慮しながら支援している。ご本人の好みのものを近くのスーパーへ職員と一緒に買物を楽しみながら購入したりしている。また、たばこについては、時間と場所を設定しつつ、日常的に楽しめるように支援している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	記録をとって、排泄パターンを調べ、昼間はできるだけ布パンツの使用やトイレでの排泄などに努めている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個別入浴で、一人一人の希望に応じて、時間も安全面を含めて、可能な限り自由に入浴を楽しめるように支援している。利用者の希望により、曜日を設定している方もいる。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	医師の相談も含め、就寝時間、起床時間を一人一人に合わせるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の楽しみごとや趣味への支援は、積極的に行っている。生け花、書道、編物、絵画など続けられる方もあれば、月4回の音楽療法士によるレクを楽しみにされている利用者もいる。レク専門の職員をスポットで配置することも行っている。		


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、管理ができない利用者は、事務所で預かり金を管理したり、管理が可能な利用者は本人が所持する等、ご家族とも相談しながら支援している。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くにスーパーがあるので、日課のように行く利用者もいる。図書館へ行ったり、近くの温泉や足浴、外食など積極的に出かけられるよう支援している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	能舞台や植物園、美術館など利用者の趣味に合わせて、外出企画を行っている。		今後、さらに家族に参加を促していきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話がある方もいる。居室に電話がない方は、事務所から電話をするなどして、支援している。たびたび利用される方などはご家族と相談しながら支援している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には、居心地よく過ごせるよう家族室の使用を勧めたり、2階の喫茶スペースに案内するなど工夫している。また、ご家族と一緒に泊まる事が可能である。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族との話し合いで、リスクの説明をした上でできる限り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。現在1名家族希望もあり、時間を決めて4点柵を使用している利用者がおられる。また、身体拘束をしないケアについての研修を行い、職員の理解を深めている。		今後も職員の理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が、居室や日中玄関に施錠をかけることの弊害を理解しており、原則として玄関の施錠は夜間のみ行っている。その際も施錠説明の内容の貼り紙を行っている。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	建物内には中庭があり、見守りのできる建物構造になっている。建物外においても、利用者が一人で散歩に出るなどの際は、景から見守れるようにしたり、プライバシー保護に努めながら、安全に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ライターやマッチは、基本的に居室には置かず、家族や職員が見守りのもと、使用してもらうなどの対応をしている。包丁についても利用者の見えないところにおくなどの配慮をしているが、2名の利用者は居室内で個人持ちの包丁を使用されている。異食行為の危険性のある利用者については、洗剤なども職員が管理している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「ヒヤリハット」「事故報告書」を記録し、職員間で共有して、再発防止に努めている。		事故防止の研修をさらに充実させていきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時等に備え、勉強会を行っている。定期的にはできていないが、第1回目として一般救急救命士の講習会を自由参加型として行った。今後、研修として取り入れていきたい。		今後、勉強会を定期的に関いて、事故防止に備えたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内で災害時対策や、昼間・夜間帯を想定した年2回の防災訓練を行っている。		運営推進会議員の方々にも一緒に防災訓練に参加していただき、協力を得られるように努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		<p>必要に応じて、随時話し合いを持っていきたい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		<p>医師による薬の勉強会を開き、職員の知識を深めていきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		<p>勉強会を開き、職員の理解を深めていきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成して、注意事項を職員の見やすいところに貼っている。感染症の講習会に参加した職員によって、勉強会も行われている。		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	事業所として提供する食材の使用と管理については、徹底しているが、利用者個人個人の食材管理は、できていない部分がある。		利用者個人個人の食材管理を徹底していきたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口のまわりに植物を置き、利用者や家族、近隣の方が和めるよう工夫している。また、玄関の施錠はしないように配慮している。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	両方のリビングから中庭を見渡すことができ、桜の木のまわりにプランターを置き、季節感を味わうことができるような空間作りを工夫している。リビングには、利用者の作品を飾るなどして、居心地のいい空間づくりに努めている。また、不快な光を遮るようにカーテンを取り付けるなど、工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル以外に、ソファやマッサージチェアなどを置き、思い思いに過ごしていただいている。また、気の合う利用者同士で過ごせるような食卓の配置を行うなどの工夫をしている。		限られた空間の中で、個々が気持ちよく過ごせるような空間作りをしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に使い慣れた家具や好みの品を持ってきていただき、自由で個性的な部屋作りをしていた。中には仏壇を置いたり、タンスを入れている方もおられる。家族の写真や自分の作品を飾り、その人らしい部屋作りの工夫をしている。</p>		
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>新鮮な空気の中で生活してもらうため、換気に努め、エアコンや加湿器も使用しながら、こまめな温度調節に努めている。また、動いている職員を基準に考えないようにしている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内では、一人一人の身体機能を活かして自立した生活を過ごしていただけるよう、手すりを少なく、家具などでの歩行の補助を行うように工夫している。</p>		
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室のドアに本人が描かれた絵を表札がわりに入れたり、好みの花の写真を入れるなど工夫している。また、ドアノブに布を巻き特徴を持たせるなどの工夫もしている。</p>		
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている</p>	<p>布団や洗濯物をベランダに干したり、職員と一緒に土いじりや水やりなどを行っている。</p>		<p>今後さらに利用者と職員と一緒にプランターに花を植えたり、野菜を育てるなど、積極的に行っていきたい。</p>

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自分や家族が入りたいグループホームを目指しており、常に利用者目線で介助を行うように心掛けている。  
特に、接遇には力を入れており、常に年長者である利用者に対する敬意を忘れない支援ができるように職員間で注意しながら励んでいる。